

## プレゼンボードの処理の違い

文書管理番号：1160-01


### Q. 質問

間取りを変更したが、変更した内容がプレゼンボードに反映しない。

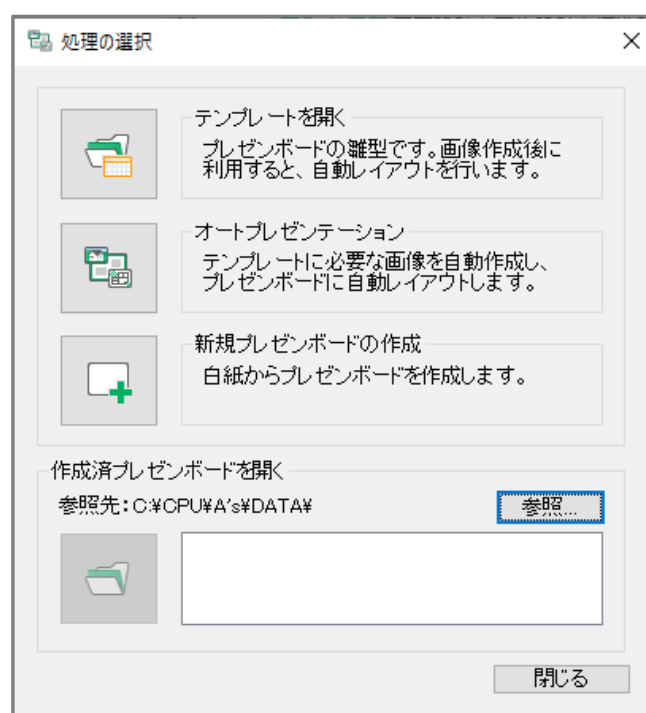
「テンプレートを開く」と「オートプレゼンテーション」の違いがわからない。

プレゼンボードの「処理の選択」でどれを選択したらよいかわからない。

### A. 回答

≡(クイックメニュー)またはメインメニューから(プレゼンボード)をクリックすると、処理の選択画面が表示されます。

「処理の選択」で選択する項目により、その後のプレゼンボード作成の動きが異なります。




#### 【注意】

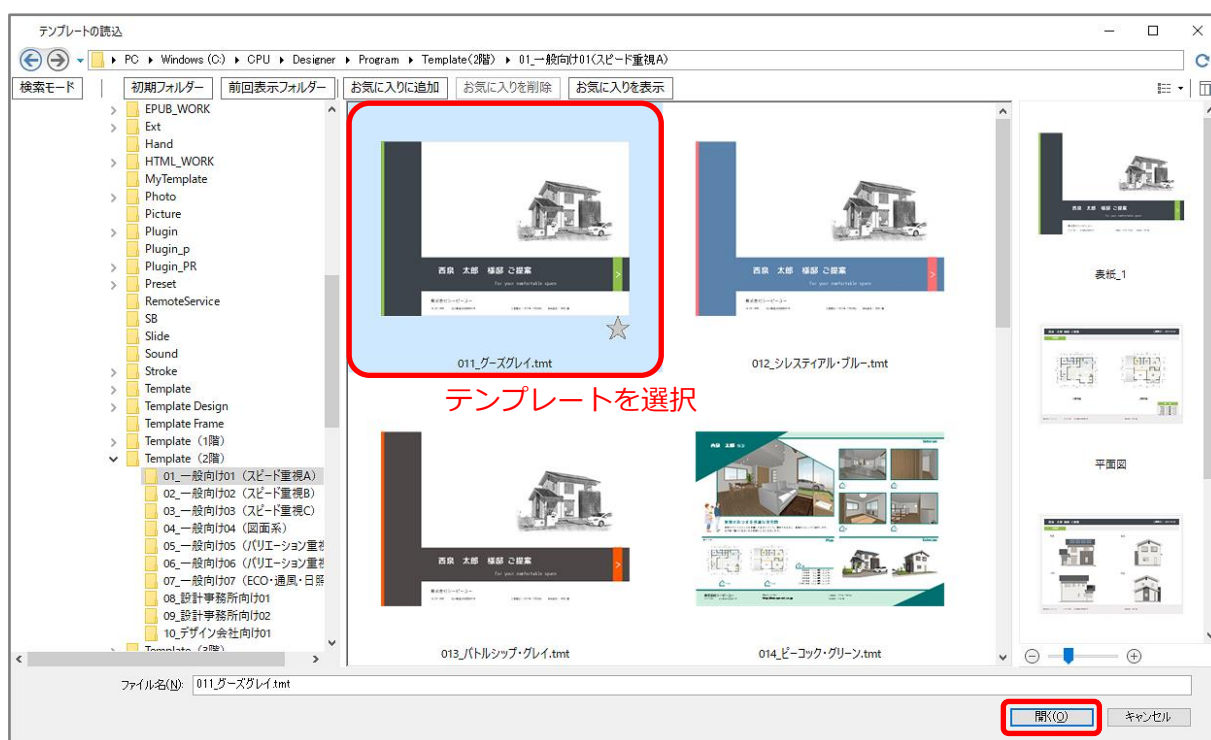
A's (エース) のプレゼンボード機能は、デザイナーを使用します。デザイナーがインストールされている環境でご利用ください。

\* デザイナーは、PRESEN MAGIC の後継製品です。

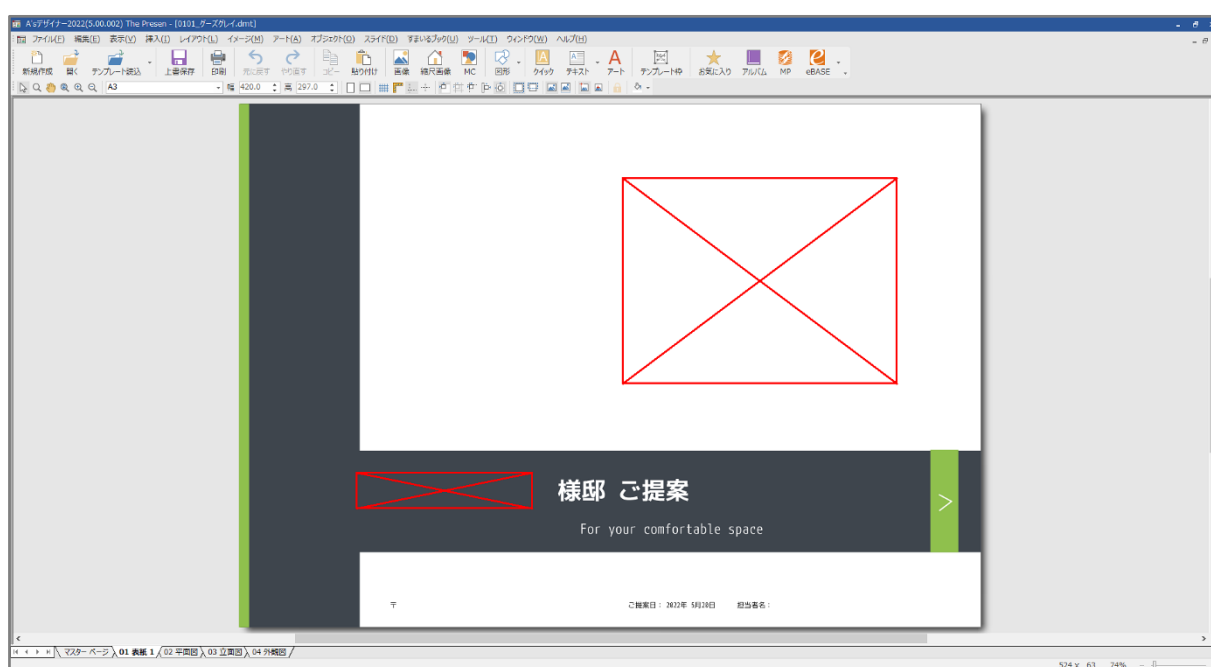
## テンプレートを開く

プレゼンボードの処理の選択画面で (テンプレートを開く) をクリックすると、テンプレートの読み込み画面が表示されます。テンプレートの読み込み画面で、テンプレートを選択し「開く」をクリックすると、テンプレートが開きます。

テンプレートとは、プレゼンボードを作成する際のベースとなる設定や固定のデザインの雛形です。A's (エース) のプレゼンボードでは、豊富な種類のテンプレートをご用意しています。



起動中の物件で、一度もオートプレゼンテーションを行っていない場合、テンプレートを開くと、画像やテキストデータが挿入される場所には赤い図が表示されます。



**【注意】**

赤い図には画像やテキストデータが自動で挿入されるリンクが設定されているため、過去にオートプレゼンテーションを行い、リンク先に画像やテキストデータがある場合はそのデータが挿入されます。

そのため、起動中物件とは異なる物件のプランやパース画像が表示される場合があります。


**【参考】**

A's（エース）のプレゼンボードでは、多種多様なテンプレートをご用意していますが、テンプレートを自作することもできます。

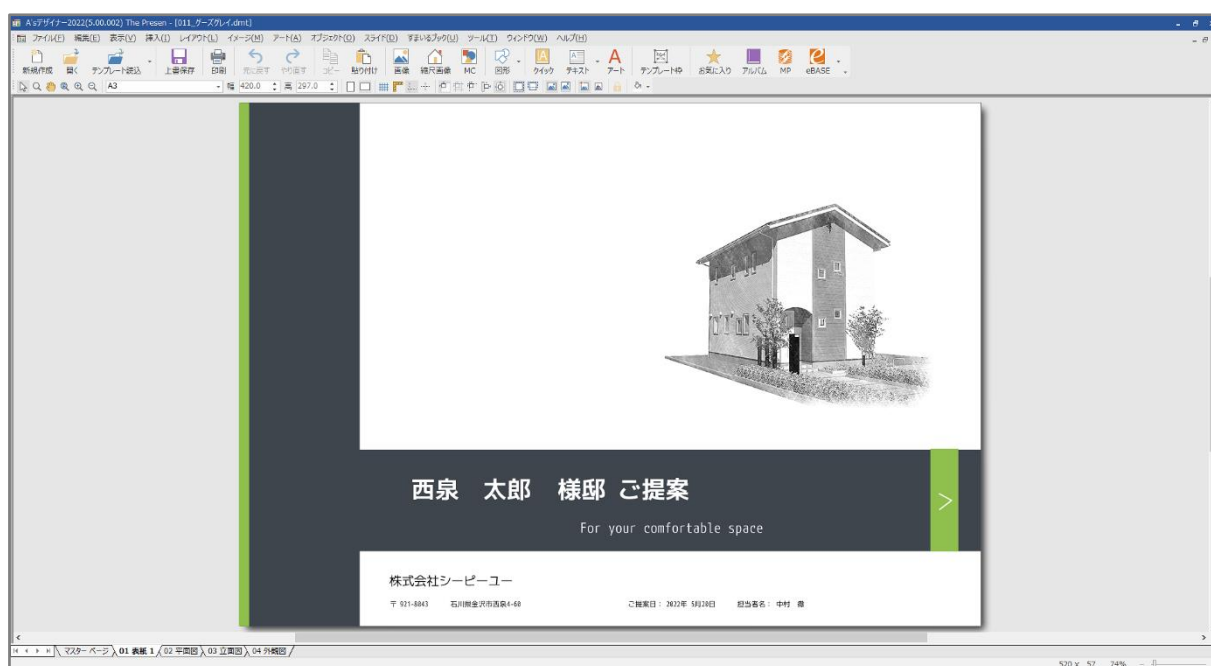
また、作成したプレゼンボードをテンプレートとして保存し、使用することもできます。

テンプレートの作成については、A's（エース）のマニュアル「デザイナー編」をご覧ください。

## オートプレゼンテーション

プレゼンボードの処理の選択画面で  (オートプレゼンテーション) をクリックすると、テンプレートの読込画面が表示され、そこで選択したテンプレートに合わせて必要な画像やテキストデータを自動作成します。

自動で作成された画像やテキストデータが、選択したテンプレートに自動レイアウトされ、プレゼンボードを作成します。




起動中の物件でプレゼンボードを自動作成したい場合や、プレゼンボードを作成後に間取りの変更などがあつた場合は、データ作成も自動で行う「オートプレゼンテーション」を使用します。

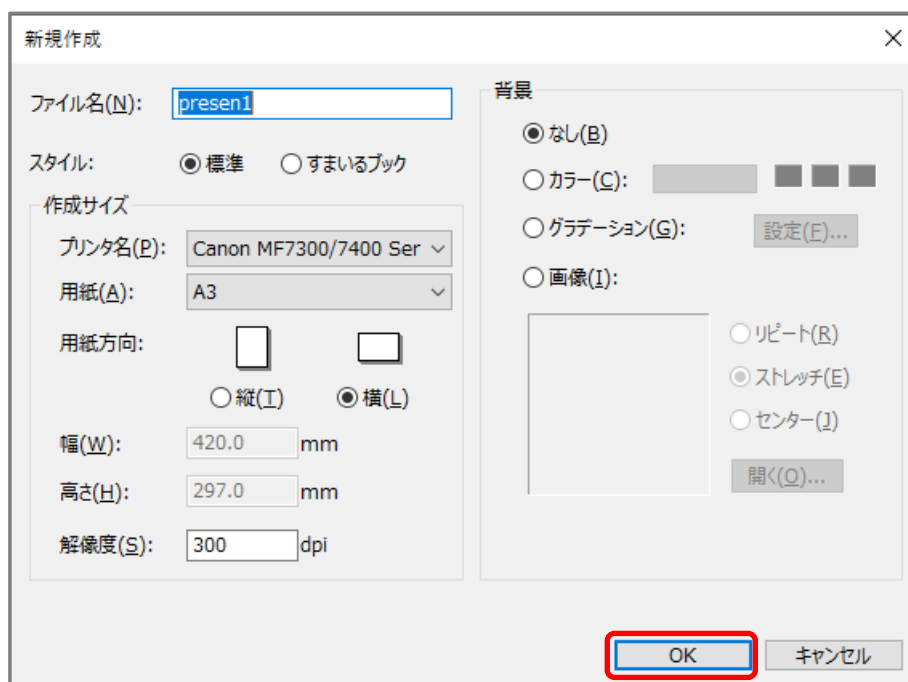
### 【注意】

オートプレゼンテーションを行っても、プレゼンボードの各種フォルダーのパス設定が、A's（エース）やデザイナーのインストールフォルダーと合っていない場合、画像が表示されません。プレゼンボードのパス設定を確認・変更する方法については、こちらをご覧ください。

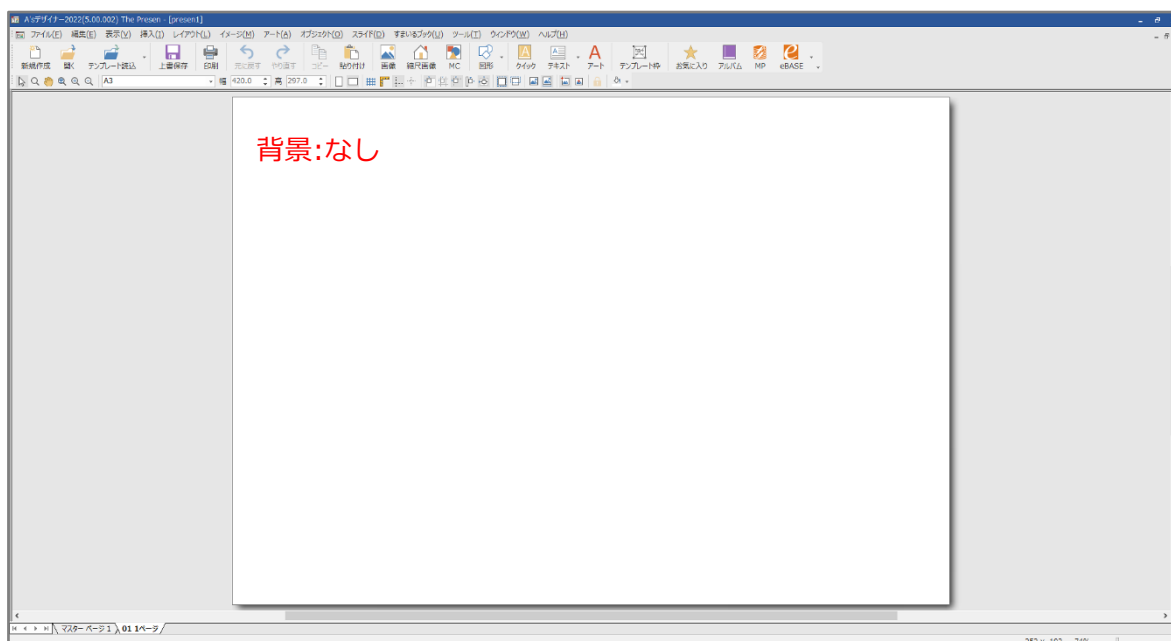
[\[1155\] プレゼンボードの各種フォルダーの設定について](#)



## 新規プレゼンボードの作成

プレゼンボードの処理の選択画面で  (新規プレゼンボードの作成) をクリックすると、新規作成の画面が表示されます。



各種設定を行い「OK」をクリックすると、設定に応じたサイズと選択した背景のプレゼンボードが表示されます。



 (画像) や  (縮尺画像)、**挿入** ⇒ **外部テキスト** からデータを挿入し、プレゼンボードを作成します。


各アプリケーションで画像を作成・保存済みで、自由にレイアウトを決めて、一からプレゼンボードを作成したい場合に使用します。

## 作成済プレゼンボードを開く

既に保存しているプレゼンボードを開きます。

作成済みのプレゼンボードを保存している場所を「参照」から指定すると、作成済プレゼンボードのファイル名が白枠の一覧に表示されます。

開きたいプレゼンボードを選択し、

 (作成済プレゼンボードを開く)をクリックします。

